

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>① 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて</p>	<p>歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、または今後積極的に行っているという歯科医師がいるかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問歯科診療の対応表：平成29年7月版は完成。医師会、薬剤師会に配布。平成30年7月版は配布対象箇所を増やしていく。 2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報については、チェック、確認し順次修正。 3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組みたいと考えている。人材養成は難しいが、衛生士会と定期的に会議をもち、情報交換、研修会、情報の共有、個々のレベルアップ、連携を行う。 4. 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう人材バンクのようなものを整備できるとよい。人材バンクは理想であるが、断念 5. サロンへの出前講座の実施検討 6. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無の確認を行う。 7. 訪問診療ニーズの把握をする必要があると考えており、調査を検討している。 	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対応表：平成30年7月版を準備中 2. チェック、修正継続中 3. 衛生士会と情報交換、研修会、情報の共有を継続 5. 出前講座を実施する 6.7. 平成30年度前半に実施できるよう調査内容、アンケート方法などを検討 	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 配布箇所、方法、訪問歯科診療にどのようにつなげていくかが課題である。 3. 歯科医師会は、小牧市。衛生士会は尾張北部と活動拠点が異なるため、会議を含め、小牧市内で活動できる衛生士が少ないなど連携が難しい状況にある。 5. 地域包括ケア推進課と検討する。 6.7. 研修会の希望の有無、訪問歯科診療ニーズの把握の実施をどのような形で、方法で実施するのか課題である。 	<p>高木委員</p>

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>① 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて</p>	<p>歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、または今後積極的に行っているという歯科医師がいるかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>【西島委員】 かかりつけ歯科が決まっていない方、もしくはかかりつけ歯科が訪問歯科診療非対応であった方から申し込みや問合せがあった場合、小牧市歯科医師会やその他関係機関と連携し、在宅での歯科診療が行えるようサポートを行っている。歯科医師会全体での一律の対応はなかなか難しいと思うが、在宅医療の推進に向け環境整備を図っていけたらと考える。また、歯科治療や口腔ケアの必要性、実施方法等について関係機関と共有し、連携の強化を図りたいと考える。</p>	<p>【西島委員】 訪問歯科診療についての申込みや問合せがあった場合、小牧市歯科医師会やその他関係機関と連携し、在宅での歯科診療のサポートを継続的に実施している。 また、市民や介護スタッフ等に訪問歯科診療の必要性や活用に関する普及啓発を実施している。</p>		<p>西島委員</p>

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>② 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて</p>	<p>訪問薬剤管理指導の活動状況の把握（施設／在宅など）、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、I V H機材、ポンプ、24時間対応、日曜日の対応を積極的に行っているかという薬局があるのかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>【浅井（宏）委員】 アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置して活用していただきたい。 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受け入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。</p>	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志による在宅医療介護連携委員会を開催。全 9 薬局が参加し、在宅の受け入れ体制について協議した。 ・無菌室保有薬局は、メンバーにおらず、検討課題である。 ・麻薬については、緊急時のための小売業者間の譲渡申請について協議した。 	<p>【浅井（宏）委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の資質の向上 ・比較的安定した患者様からでも良いので、会員の在宅経験の積み上げが必要である。 ・無菌保有薬局との連携 ・介護事業所等との連携強化 	<p>浅井（宏）委員</p>

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>③ 各介護保険サービス事業所についての情報共有について</p>	<p>各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテーテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど、専門性や得意分野などの整理ができるか。</p>	<p>【伊藤（里）委員】 事業所一覧については各事業所の医療対応情報を加えた形で平成28年7月に完成し、12月に介護保険サービス事業者連絡会から事業所一覧（ダイジェスト版）を市内医療機関に送付するとともに、市やふれあいセンターの窓口を設置している。 ⇒ 今年度は冊数に限りがあり、歯科医院や薬局への配付はできなかつたため、増刷するなどし、提供機関を増やしていきたい。</p>	<p>【伊藤（里）委員】 6/17 こまき介護展を実施。今年は来場者が350名を超えることができた。 市民へ介護保険制度をアピールするための企画だが、事業者間相互のネットワークの強化と情報交換の場となっている。</p>	<p>【伊藤（里）委員】 サービス事業者同士で医療対応や、看取り・困難事例等の情報共有を行うことができていない。 成功事例の共有や意見交換する場なども必要と思われる。</p>	<p>伊藤（里）委員 大野委員 田中委員 尾崎委員</p>

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>④ 研修について</p>	<p>i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医師とあゆむ勉強会」は在宅医療推進委員会後、開催し医師の参加も目的にしている。(救急救命士による救急車を呼ぶということ・高齢者に関する運転免許制度・葬儀社によるグリーフケア・施設全般・在宅医療導入研修として終末期に関わる援助。12月皮膚排泄ケア認定看護師・2月訪問看護師・摂食嚥下サポートチーム立ち上げと講習会) 平成30年5月に今の形式で開催予定。 ・在宅医療に関してアンケート調査結果(公表可)については、医療・介護関係機関に情報提供を行った。 ・医師会にて副科(耳鼻咽喉科、眼科に限る)の紹介マニュアルを作成し3件紹介した。今後も継続する。医師会にて作成した「副科紹介ツール」は継続する。 ・在宅医療を行うにあたり訪問看護の必要性は高まっていることから、訪問看護ステーション概要一覧については、小牧市医師会A会員に郵送し、情報提供を行った。連携が強化され、医師の負担軽減になると良い。 ・勉強会から立ち上がった「小牧摂食嚥下サポートチーム」～小牧ごっくんサポート～は、こまきつながるくんを情報共有ツールとして活用しながら活動予定である。 <p>⇒ 在宅診療に関する同行訪問研修を計画を立てて実施していく。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携に関する各種研修会及び勉強会の集約化(別紙資料参照) ・第1回「在宅医療・介護勉強会」～くらしを支えるフットケア～を5月9日に開催。37名(うち医師5名)参加 ・第2回「在宅医療介護勉強会」テーマ～慢性呼吸器疾患看護のセルフケア支援～を医療介護関係者を対象に開催する。 <p>上記を含め、年5回予定している。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程や内容などを含め、参加しやすい研修会、勉強会とするため、関係機関と情報共有が必要である。 	<p>磯村委員</p>

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>(中) 研修について</p>	<p>ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。</p>	<p>【志津委員】 1月25日に、「それぞれの行き方、逝き方～本人の意志に寄り添う支援のあり方を考える～」が開催された。 (87名参加。うち、訪問看護師14名) 多死社会と言われるなかで、訪問看護が関わった2事例を通して、それぞれのグループに分かれ、意見交換を行った。今回は、訪問看護師も参加人数を確保でき、12グループでのグループワークが出来たため、より意見交換をしやすい場となったと思われる。 ⇒ 在宅で生活を行うにあたり、訪問看護が医療、介護の橋渡しになるよう訪問看護について発信していくとともに、皆さんの意見を集約し、訪問看護間のレベルアップのため、勉強会などを開催するなど、実施する必要がある。 2月14日にラピオにおいて、「在宅医療推進には訪問看護が欠かせない」をテーマに勉強会を開催した。(43名参加) 昨年に引き続き、訪問看護の内容をニーズに合わせながら説明するとともに、実際の事例をあげながら、料金についても説明した。 ⇒ 訪問看護は、医療保険と介護保険での訪問があり、複雑であるため、医療と介護保険でできることが異なるのではないかとされていたり、介護度により週何回訪問、何時間訪問できるかなどの質問があった。アンケート等の質問からも、もう少し分かりやすく、説明する必要があると思われるため、今後も訪問看護が利用しやすくなるよう、訪問看護について多職種への説明を継続する必要がある。</p>	<p>【岡委員】 ・2か月に1回の定期部会を開催し、事業者連絡会や外部委員会での情報を共有しているとともに、訪問看護における問題点や課題などを話し合っている。 ・10月：研修会開催にあたり、講師への派遣依頼中 <今後の予定> ・10月17日(水) 看護部会として「在宅療養における感染予防(仮)」の研修会を予定している。 参加対象：小牧市にある医療と看護・介護・福祉のサービスマスターに携わる方 講師：小牧市民病院の感染管理認定看護師 時間：18：30～20：00の1時間30分</p>	<p>【岡委員】 ・訪問看護における問題点や課題を発掘しても、適切かつ迅速に解決策を見出すための検討時間が現状では持てない。 ・10月研修会開催にあたり、参加者への告知、会場、謝金設定など</p>	<p>岡委員</p>

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>㊦ 研修について</p>	<p>ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。</p>	<p>【大野委員】</p> <p>11月30日に「薬剤師とケアマネの座談会」を開催。37名参加（うち薬剤師10名）。お互いがどのような役割ができるのか意見交換し、相互理解が深まった。</p> <p>座談会を初めて開催し、お互いのことを理解できたことで、今後のチームケアに広がり期待できる。</p> <p>2月14日ケアマネのためのリハビリテーションの実践知識 Part2 を開催。28名のケアマネが参加。小牧市リハビリテーション連絡会からも多数参加があった。</p> <p>在宅生活におけるリハビリの必要性や効果について学習した。</p> <p>今回は呼吸器、口腔、嚥下などのリハビリについて学習。新たな知識を得る機会となった。</p>	<p>【大野委員】</p> <p>平成30年度は医療と介護の職種間の情報交換会の予定はなし。</p> <p>市の事例検討会や、市民病院や在宅医療・介護連携サポートセンター主催の研修を周知し、個々で参加する。</p>	<p>【大野委員】</p> <p>研修過多な声も出ているが、個々のケアマネジャーや訪問看護が必要な研修を取捨選択してもらうようにする。</p>	<p>大野委員 尾崎委員</p>
			<p>2月16日に開催された四者連絡会において研修日程などを協議したが、未だ決定していない。</p> <p>⇒ ケアマネが参加しなければいけないという研修会など多数あり、業務に支障をきたすことのないように、研修回数を減らすなど検討が必要である。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <p>地域包括支援センターにも、今年度の研修計画について、内容や日時等の問い合わせがあるが、はっきり伝えられるものがない。</p> <p>今後の予定としては、研修が決まり次第、なるべく早めに伝えようとする流れはある。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <p>本来であれば、年度末に来年度の予定が決定し、各関係者に伝えられると良い。</p> <p>そのためには、次年度の研修計画を秋頃から検討していきけるとよいのではないかな。</p>	

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(カ) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>(4) 研修について</p>	<p>iii) 日程が重ならないように調整が必要。</p>	<p>【田中委員】 平成28年度から介護支援専門員連絡協議会のホームページに情報共有用のスケジュール表を掲載している。 ホームページの閲覧は、月平均185件ほどあるが、どの程度活用されているかは不明である。 (多いときで、月250件閲覧されている) 2月16日に包括、事業者連絡会、ケアマネ連協、市、在宅医療サポートセンターで会議を開き、平成30年度の研修の開催数と時期について調整した。その中で主要研修を月1回程度とし、その他の研修については各自が取捨選択することを案内することにした。 ⇒ 多機関が研修を開き、ケアマネ、訪問看護については研修が過剰な状態になっている。関係機関が類似のものは共同開催にするなどの調整が必要。 * 研修については、小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターで集約し、一括管理を行う。</p>	<p>【田中委員】 包括、ケアマネ連協、サービス事業者連絡会、在宅医療・介護連携サポートセンターの5者で市内の研修調整を行っている。</p>	<p>【田中委員】 医療・介護関連の研修計画はサポートセンターのホームページに掲載してはどうか。</p>	<p>田中委員</p>

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(主) 地域住民への普及啓発</p>	<p>(5) わた史ノートの普及・啓発について</p>	<p>わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。</p>	<p>【江口委員】 平成29年4月から南部地区に地域包括支援センターが開設したことを踏まえ、わた史ノートを一部修正し、増刷した。 来年度以降、わた史ノートの普及啓発を目的として、市出前講座のメニューに追加し、地域包括支援センターが中心となって普及・啓発を図る予定である。 平成30年2月9日に寿学園において、わた史ノートについての講演を実施した。(参加者約450名) また、次年度以降、市出前講座で普及啓発を図るため、2月13日に、小牧市民病院にご協力いただき、わた史ノートについての講義を行っていただいた。 ⇒ 小牧市民病院のご協力のもと、受講したわた史ノートの講義を活かし、多世代(健康な一般市民やひとり暮らし高齢者など)に対し、普及啓発するため、計画的に実施していく必要がある。 平成30年度末に改訂予定の中学社会科副読本「小牧」にわた史ノートの啓発ページを盛り込んでいただくよう依頼。</p>	<p>【江口委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わた史ノートの普及啓発に向けて、平成30年度より、市出前講座としてメニューに追加した。 ・6月：篠岡圏域で1件実施済み。(篠岡包括) ・10月に北里圏域で依頼が1件入っている(北里包括) ・各地域包括支援センターの年間事業計画において、わた史ノートの普及啓発を掲げており、包括主催の講座を、年5回以上実施することを目標としている。 ・中学社会科副読本「小牧」については、教育委員会において、検討中で、10月頃に最終的な結論が出る見込みである。 	<p>【江口委員】</p> <p>小牧市民病院の協力のもと、より多くの方に活用いただけるよう小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター、地域包括支援センターを中心に普及・啓発に力を入れていきたい。</p>	<p>渡邊委員 大野委員 尾崎委員 江口委員</p>
				<p>【尾崎委員】</p> <p>地域包括支援センターでは、いつでも出前講座ができるように準備をしている。 また、今年度よりモデルで実施する「サロン巡回」において、啓発を行う予定である。</p>	<p>【尾崎委員】</p> <p>中学社会科副読本に盛り込まれた際には、中学生にも実際に目に触れる機会があると良い。</p>	

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p>	<p>㊦ 療法師の取り組みについて</p>	<p>療法師の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか計画を出せると良い。</p>	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月21日小牧市リハビリテーション連絡会総会、勉強会を開催予定 ⇒ 小牧市リハビリテーション連絡会の会員加入、事業への参加を促す。 ・膝腰スッキリ体操：16回 ⇒ 現在5名で担当。参加可能な会員を増やす。 ・小牧市版介護予防リーダ－養成研修、講師 ・介護教室（味岡） ・在宅医療・介護連携研修会 ・美姿勢 EX（一般向け） ・膝腰スッキリ体操：4回 ・寿学園にて講演 ⇒ 講座内容を若手に伝達 ・介護予防関係者への出向 ・つどいの場立ち上げの手伝い ・こまき山体操の作成 ⇒ 各サロンの特性に合わせることが大切だが、難しい。他の健康体操等の違いをどのように表し、伝えるか課題である。医療機関従事者の参加を促す必要がある。 ・介護支援専門員向け講演（2月14日） ・各療法師の人材確保 ・事務局の事務局経費：次年度以降、愛知県士会より助成予定 ・情報センターで講演、勉強会資料を集約。人材紹介、派遣も検討中。 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年5月23日 総会の反省会とともに、会員及び訪問看護部会の看護師に“こまき山体操”を披露し、意見聴取。 ・今年度1回終了 現在、あと5回予定 ・11月：勉強会を担当 ・こまき山体操（モデル） 5回中4回実施（モニタリング残す） ・問い合わせ中 	<p>【大橋委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手の参加の捉え方 ・画一的に行えるような指導方法の確立 ※ 全ての項目になるべく多くの会員が関わることを当初から目的としてきたが、今回の保険の改正等で一層、困難となる傾向にある。 	<p>大橋委員</p>

進捗状況報告シート

【資料3】

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援	(ア) 病院とケアマネジャーの連携について	病院とケアマネジャーの連携について連絡方法など、意思の疎通を図っていると良い。	【田中委員】 平成30年度の介護報酬の改定に医療・介護の連携について加算がさらに強化された。 この機会に、ICTや連携シートの活用についてさらに周知を図りたい。	【田中委員】 6/7に以下のメンバーで医療と介護の連携シートの活用状況について意見交換を行い、それぞれの役割について確認をした。 ※ 小牧市民病院患者支援センター、小牧第一病院、在宅医療・介護連携サポートセンター、サービス事業者連絡会、ケアマネ連協、地域包括、市地域包括ケア推進課	【田中委員】 連携シートの使い方について周知が不十分。マニュアルを作成し、手順の周知を図る必要がある。 ICTの活用がなかなか進んでおらず、実用レベルまでの底上げが必要。	田中委員 大野委員
			【菅沢委員】 平成29年4月から平成30年2月で129件の連携シートが活用された。 院内においては、この2年間を通して病棟看護師に周知され、患者の状況に応じて看護要約を添付するなどしている。 今後、更に推進するため、小牧第一病院も含めて活用していく必要がある。 ⇒ 平成30年度診療・介護報酬改定により、入院時情報など連携強化がされる中で、連携シートの活用を更に積極的に行いたい。	【三谷委員】 平成29年4月から平成30年3月まで160件の連携シートが活用された。 また、患者の状況に応じて、看護要約を添付するなどしている。 患者が転院した場合には、当院の情報を加えず、一旦、ケアマネジャーに返却している。 今後も継続して、連携シートを活用していく。	【三谷委員】 患者が転院する場合など、連携シートを転院先の医療機関へ引き継いで送る話が過去にはあったようであるが、個人情報の取扱いについて本人の同意が得られていないなどの理由から転院時には活用されていない。 市内外から様々な様式の連携シートが提出されているが、近隣市町村において様式の統一化を図った方がいいのではないか。	三谷委員

目的	概要	詳細	平成29年度第3回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援</p>	<p>(8) ICTの構築について</p>	<p>小牧市において、統一した形でICTを構築できると良い。</p>	<p>【江口委員】 ICTを活用した医療・介護連携システム「こまつながるくん連絡帳」の活用促進に向け、必要がある場合は、事業所等に出向き、設定操作の説明を実施し、登録者増を目指した。</p> <p>【登録者の状況】 ・登録施設数：73か所 また、ケアマネジャー、地域包括支援センターを中心に、具体的に9名の症例が情報共有されている。 ⇒ 依然として、登録施設数が少ない状況であり、関係機関の協力のもと、登録率を上げる必要がある。また、ケアマネジャー、地域包括支援センターを中心に1事例でも多く事例を積み重ねるなかで、未利用者等に対して、利用のメリットなどを伝える中で、普及させていく必要がある。 付加価値については、皆さんの意見を聞きながら進めていく。「つながるくん」の市民向けのページを活用し、普及啓発、情報発信を行うなど、充実化が求められる。</p>	<p>【江口委員】 ・活用促進に向けた出張説明 35か所 ・登録施設数：93か所 ・登録患者数：27名 ※H30.6.18時点 ※詳細は、資料4参照</p> <p>・患者情報の共有だけではなく、「つながるくん」の活用の可能性を高めるべく、会議、専門職間の連携ツールとして活用を促進</p> <p>例) ・小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター会議メンバー：開催通知、議事録、情報共有 ・小牧市認知症初期集中支援チーム：情報共有 ・地域支え合い推進員を中心とした専門機関（専門職）：サロンでの巡回相談結果の共有化</p>	<p>【江口委員】 引き続き、関係機関の協力のもと、登録率の上昇を目指す。 また、患者情報の共有以外の活用方法などについても、周知するとともに、患者情報の共有に向けて、1事例でも多く事例を積み重ね、未利用者等に対して、利用のメリットなどを伝える中で、普及させていく必要がある。</p>	<p>江口委員</p>